

## ガリレオ

第52期末(2023年4月20日)		第52期	
基準価額	7,390円	騰落率	-0.54%
純資産総額	3,696百万円	分配金合計	20円

(注)騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

## ■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	原則として無期限
運用方針	日本を含む世界各国の債券・通貨への分散投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。債券市場の国別配分、および通貨配分はゴールドマン・サックスが開発した3つの計量モデルを組み合わせて用いることにより決定し、ポートフォリオを構築します。
主要投資対象	
本ファンド	ガリレオ・マザーファンドの受益証券
ガリレオ・マザーファンド	日本を含む世界各国の債券および通貨
運用方法・組入制限	①主としてマザーファンドの受益証券に投資し、原則として、その組入比率は高位に保ちます。 ②本ファンドおよびマザーファンドにおける組入制限は下記のとおりです。 ・株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の70%以下とします。 ・外貨建資産への投資割合については、特に制限を設けません。
分配方針	原則として毎計算期末(毎年4月20日および10月20日。休業日の場合は翌営業日。)に収益の分配を行います。投信会社が経費控除後の利子・配当等収益および売買損益(評価損益を含みます。)等の中から基準価額水準、市場動向等を勘案して分配金を決定します。

## 追加型投信／内外／債券

第52期(決算日2023年4月20日)

作成対象期間:2022年10月21日～2023年4月20日

## 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「ガリレオ」は、このたび、第52期の決算を行いました。本ファンドは、独自開発の計量運用モデルを用い、日本を含む世界の先進国の債券および通貨に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行っております。今期の運用経過等について、以下のとおりご報告申し上げます。今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー  
お問合せ先: 03-6437-6000(代表)  
受付時間: 営業日の午前9時～午後5時 | [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	税引前 分配金	期中 騰落率	ベンチマーク		債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
					期中 騰落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
48期(2021年4月20日)	8,495	20	△4.0	16,313	△2.4	82.0	△96.1	4,749
49期(2021年10月20日)	8,480	20	0.1	16,289	△0.1	83.3	△46.1	4,569
50期(2022年4月20日)	7,971	20	△5.8	15,419	△5.3	84.1	△45.7	4,173
51期(2022年10月20日)	7,450	20	△6.3	14,344	△7.0	79.9	△41.7	3,794
52期(2023年4月20日)	7,390	20	△0.5	14,549	1.4	80.6	△15.5	3,696

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 日本円1ヵ月TIBOR20%、2021年12月31日まではJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 1ヵ月円LIBOR20%) は、1997年4月30日を10,000として指数化しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注4) 本ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

## ■当期中の基準価額と市況推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		債券 組入比率	債券 先物比率
		騰落率		騰落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2022年10月20日	7,450	—	14,344	—	79.9	△41.7
10月末	7,506	0.8	14,481	1.0	80.2	△41.3
11月末	7,561	1.5	14,676	2.3	78.8	△36.1
12月末	7,420	△0.4	14,435	0.6	76.3	△33.9
2023年1月末	7,507	0.8	14,623	1.9	77.2	△33.1
2月末	7,404	△0.6	14,395	0.4	78.7	△35.6
3月末	7,456	0.1	14,642	2.1	79.6	△18.2
(期末)						
2023年4月20日	7,410	△0.5	14,549	1.4	80.6	△15.5

(注1) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

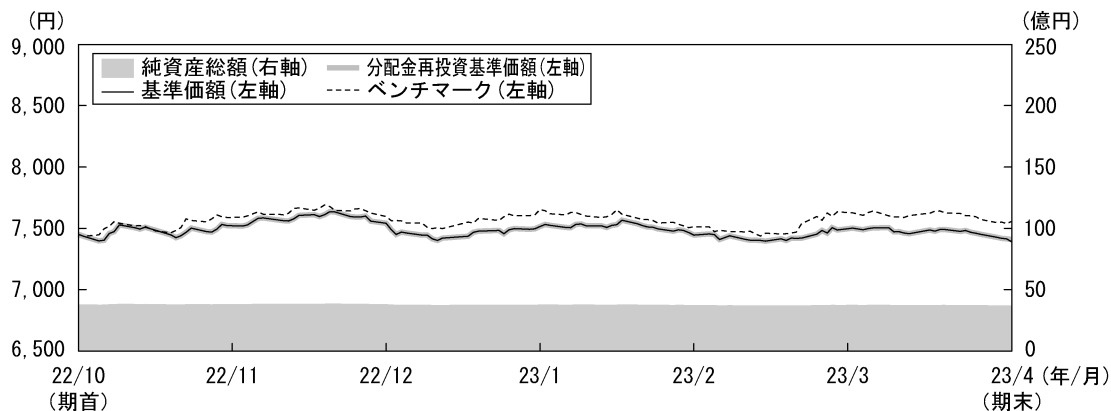
(注2) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 日本円1ヵ月TIBOR20%) は、1997年4月30日を10,000として指数化しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

(注4) 本ファンドはマザーファンドを組入れますので、債券組入比率、債券先物比率は、実質比率を記載しております。

## 運用経過

## ■ 基準価額等の推移について（2022年10月21日～2023年4月20日）



第52期首：7,450円

第52期末：7,390円

（当期中にお支払いした分配金：20円）

騰落率：-0.54%（分配金再投資ベース）

- (注1) ベンチマークはJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（100%為替ヘッジ、円ベース）80% + 1ヵ月円LIBOR20%、2022年1月よりJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス（グローバル）（100%為替ヘッジ、円ベース）80% + 日本円1ヵ月TIBOR20%です。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。
- (注4) 分配金再投資基準価額、ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

## ■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の7,450円から60円下落し、期末には7,390円となりました。

上昇要因

債券国別配分戦略のプラス寄与が基準価額の上昇要因となりました。また、保有する債券からの利息収入も基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

通貨配分戦略や資産間配分戦略のマイナス寄与などが基準価額の下落要因となりました。また、分配金をお支払いしたことも基準価額の下落要因となりました。

## ■投資環境について

### <外国債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債利回りは総じて下落（価格は上昇）しました。

期初は、2022年前半に顕著だった米国の物価上昇により、F R B（米連邦準備制度理事会）が政策金利を連続して引き上げ、短期金利の上昇が続いていました。11月上旬に発表された米国のインフレ関連指標が市場予想を下回り、金融市場ではF R Bの利上げペースの鈍化と近い将来の利下げを織り込むようになり、米国10年債利回りは4.0%超程度から3.5%程度へ低下しました。一方で景気の減速感が和らいだことから2023年に入ると利回りは上昇していましたが、3月に発生した米国大手地方銀行の破綻の結果、金融セクターの健全性を維持する観点からF R Bが利上げペースを鈍化させるとの期待も強まり、4.0%程度を超えていた利回りは4月下旬には3.5%近辺へ低下し、期を終えました。一方、ドイツ10年国債は2.0%程度～2.5%程度のレンジで期中安定して推移しました。

### <外国為替市場>

外国為替市場では、主要国通貨は対円で下落しました。米ドル円相場は、日米金利差の拡大を背景に円安・米ドル高傾向が続き、期初では1米ドル=150円近辺でしたが、その後は米国の政策金利の頭打ちが予想されたこと、日本銀行によるイールドカーブコントロール（長短金利操作）政策の修正期待から、期末には1米ドル=135円近辺まで下落しました。英ポンド、ユーロ、豪ドルなど主要通貨も米国政策金利の頭打ち予想を背景に、期を通して米ドルに対して上昇傾向で推移しました。

## ■ポートフォリオについて

### <本ファンド>

ガリレオ・マザーファンドを組入れることにより、日本を含む世界各国の債券および通貨への投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行いました。

### <本マザーファンド>

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行いました。

当社のアクティブな投資判断に基づいて、この運用期間中に投資配分比率を機動的に変更しました。

### 債券国別配分戦略

当期の債券国別配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにプラス寄与となったものと推定しています。イタリアと米国はマイナス要因となりましたが、カナダ、フランスがプラス要因となり、戦略全体としてはプラスとなりました。

### 通貨配分戦略

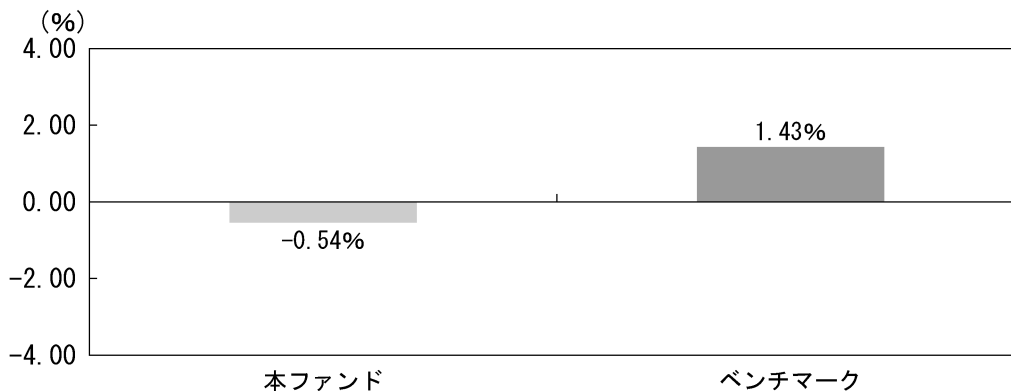
通貨配分戦略は、債券国別配分戦略とは独立して行います。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して弱気の見通しであれば、米国債券にはオーバーウェイトとすると同時に、米ドルをアンダーウェイトとするということとなります。当期の通貨配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにマイナス寄与となったものと推定しています。ユーロやカナダがプラス要因となりましたが、米国や英国がマイナス要因となり、戦略全体としてはマイナスとなりました。

### 資産間配分戦略

当期の資産間配分戦略は、本マザーファンドのパフォーマンスにマイナス寄与となったものと推定しています。

### ■ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



(注) 基準価額の騰落率は収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当期の本ファンドのパフォーマンス（分配金再投資ベース）は-0.54%となり、ベンチマーク（+1.43%）を下回りました。当期においては、通貨配分戦略と資産間配分戦略がマイナス寄与となった一方、債券国別配分戦略はプラス寄与となりました。

## ■分配金について

収益分配金（1万口当たり、税引前）については、分配方針および基準価額の水準などを勘案し、当期は20円としました。収益分配金に充てなかった収益については、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用を行います。

## 今後の運用方針について

### <本ファンド>

今後も引き続き本マザーファンドを組入れることにより、日本を含む世界各国の債券および通貨への投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。

### <本マザーファンド>

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行います。

### 債券国別配分戦略

債券国別配分においては、イタリアや米国に対して強気の見通しとする一方で、カナダやドイツに対して弱気の見通しとしています。イタリアに対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。米国に対しては、バリュウの観点から強気の見通しとしています。カナダに対しては、バリュウおよびモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。ドイツに対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

### 通貨配分戦略

通貨配分においては、米国やユーロに対して強気の見通しとする一方で、英国やスイスに対して弱気の見通しとしています。米国およびユーロに対しては、マクロの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、バリュウおよびマクロの観点から弱気の見通しとしています。スイスに対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

### 資産間配分戦略

世界債券と円キャッシュ間の資産間配分戦略では、世界債券に対してモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

（上記見通しは2023年4月20日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

## 本ファンドのデータ

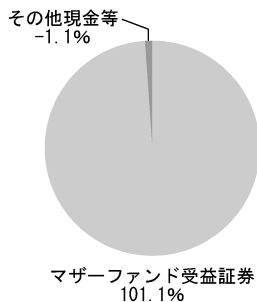
■本ファンドの組入資産の内容（2023年4月20日現在）

○組入れファンド

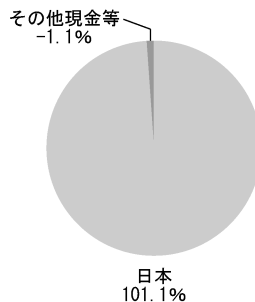
（組入銘柄数：1銘柄）

ファンド名	比率
ガリレオ・マザーファンド	101.1%

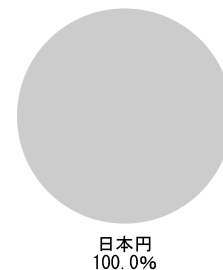
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分

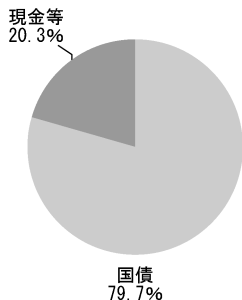


（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

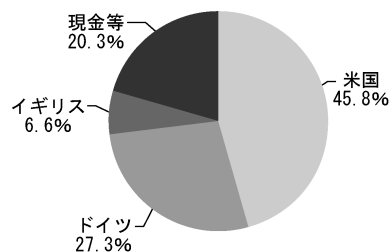
## ■組入上位ファンドの概要

ガリレオ・マザーファンド（2023年4月20日現在）

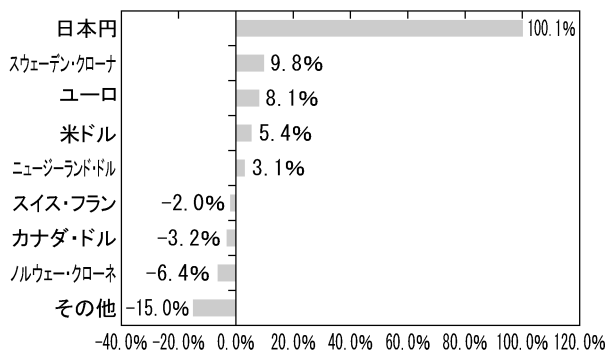
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



## ○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：12銘柄）

	銘柄	種別	通貨	構成比
1	アメリカ国債 6.25% 2030年5月15日	国債	USD	16.4%
2	アメリカ国債 4.5% 2036年2月15日	国債	USD	15.8%
3	アメリカ国債 3% 2048年2月15日	国債	USD	13.6%
4	ドイツ国債 4.75% 2028年7月4日	国債	EUR	5.9%
5	ドイツ国債 6.25% 2030年1月4日	国債	EUR	5.5%
6	ドイツ国債 5.5% 2031年1月4日	国債	EUR	5.5%
7	ドイツ国債 4.75% 2034年7月4日	国債	EUR	5.3%
8	ドイツ国債 4% 2037年1月4日	国債	EUR	5.1%
9	イギリス国債 4.25% 2032年6月7日	国債	GBP	1.9%
10	イギリス国債 4.25% 2039年9月7日	国債	GBP	1.6%

（注1）資産別配分、国別配分、通貨別配分、組入上位10銘柄のデータは組入れファンドの直近の決算日時点のものです。

（注2）上記の比率は全て組入れファンドの純資産総額に対する割合です。



## ■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2022年10月21日～2023年4月20日		
	金額	比率	
信託報酬 (投信会社)	61円 (29)	0.823% (0.384)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ファンドの運用、受託会社への指図、基準価額の算出、目論見書・運用報告書等の作成等の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、分配金・換金代金・償還金の支払い業務等の対価 ファンドの財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(販売会社)	(29)	(0.384)	
(受託会社)	(4)	(0.055)	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	1 (1) (0)	0.012 (0.010) (0.002)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	4 (0) (0) (4)	0.056 (0.005) (0.003) (0.048)	
合計	66	0.891	

期中の平均基準価額は7,475円です。

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む。)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、本ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、本ファンドに対応するものを含みます。

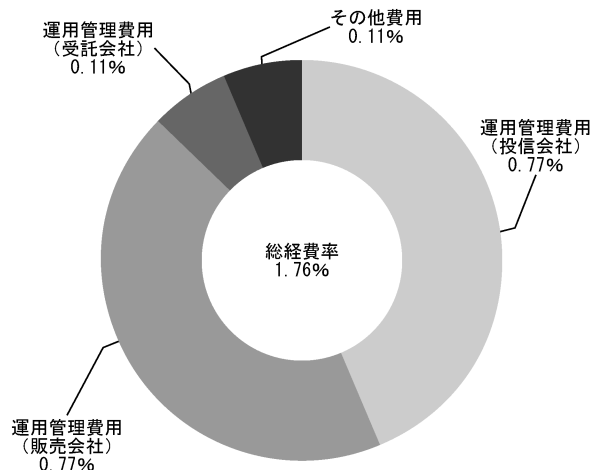
(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## (参考情報)

## ■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料、及び有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は1.76%です。



(注1) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

(注4) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ■売買及び取引の状況(2022年10月21日から2023年4月20日まで)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ガリレオ・マザーファンド	14,905	19,458	101,982	133,117

## ■利害関係人との取引状況等(2022年10月21日から2023年4月20日まで)

利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ■組入資産の明細(2023年4月20日現在)

親投資信託残高

種 類	前期末	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ガリレオ・マザーファンド	2,959,567	2,872,490	3,738,259

## ■投資信託財産の構成

2023年4月20日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ガリレオ・マザーファンド	3,738,259	100.0
投資信託財産総額	3,738,259	100.0

(注1) ガリレオ・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(4,782,759千円)の投資信託財産総額(5,781,005千円)に対する比率は82.7%です。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。なお決算日における邦貨換算レートは1米ドル=134.92円、1カナダドル=100.21円、1ユーロ=147.82円、1英ポンド=167.69円、1スイスフラン=150.23円、1オーストラリアドル=90.50円です。

## ■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	当 期 末
	2023年4月20日
(A) 資 産	3,738,259,490円
ガリレオ・マザーファンド(評価額)	3,738,259,490
(B) 負 債	42,006,108
未払収益分配金	10,003,958
未払信託報酬	31,062,066
その他未払費用	940,084
(C) 純資産総額(A - B)	3,696,253,382
元 本	5,001,979,390
次期繰越損益金	△ 1,305,726,008
(D) 受益権総口数	5,001,979,390口
1万口当たり基準価額(C/D)	7,390円

## ■損益の状況

項 目	当 期
	自2022年10月21日 至2023年4月20日
(A) 有価証券売買損益	11,949,630円
売 買 益	14,593,609
売 買 損	△ 2,643,979
(B) 信託報酬等	△ 32,002,150
(C) 当期損益金(A + B)	△ 20,052,520
(D) 前期繰越損益金	△ 1,262,409,811
(E) 追加信託差損益金	△ 13,259,719
( 配当等相当額 )	( 272,651,929)
( 売買損益相当額 )	(△ 285,911,648)
(F) 計 ( C + D + E )	△ 1,295,722,050
(G) 収益分配金	△ 10,003,958
次期繰越損益金(F + G)	△ 1,305,726,008
追加信託差損益金	△ 13,259,719
( 配当等相当額 )	( 272,710,272)
( 売買損益相当額 )	(△ 285,969,991)
分配準備積立金	1,693,186,478
繰越損益金	△ 2,985,652,767

(注1) 損益の状況の中で (A) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で (B) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注4) 収益分配金の計算過程において、マザーファンドの配当等収益を繰入れております。

(注5) 期首元本額は5,094,238,289円、当作成期間中において、追加設定元本額は26,036,093円、同解約元本額は118,294,992円です。

## ■分配金のお知らせ

決 算 期	第52期
1万口当たり分配金	20円

- ◇分配金には、課税扱いとなる普通分配金と、非課税扱いとなる元本払戻金(特別分配金)があります。
- ◇分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、下回る部分に相当する金額が元本払戻金(特別分配金)、残りの部分が普通分配金となります。
- ◇税率は、個人の受益者については原則20.315% (所得税15.315%、地方税5%) です。ただし、外国税額控除の適用となった場合には、軽減される場合があります。
- ◇税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合もあります。

## ■分配原資の内訳

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

項目	第52期
	2022年10月21日～2023年4月20日
当期分配金	20
(対基準価額比率)	0.270
当期の収益	20
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,930

- (注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。
- (注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税引前)に合致しない場合があります。
- (注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

# ガリレオ・マザーファンド

## 親投資信託

第43期（決算日2023年4月20日）

作成対象期間：2022年10月21日～2023年4月20日

### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
法令・諸規則に基づき、親投資信託(マザーファンド)の  
期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

### ■本ファンドの仕組みは次のとおりです。

商品分類	親投資信託
信託期間	原則として無期限
運用方針	日本を含む世界各国の債券・通貨への分散投資を通じて、信託財産の長期的な成長を図ることを目標として運用を行います。債券市場の国別配分、および通貨配分はゴールドマン・サックスが開発した3つの計量モデルを組み合わせて用いることにより決定し、ポートフォリオを構築します。
主要投資対象	日本を含む世界各国の債券および通貨
組入制限	①株式への投資は、信託財産の純資産総額の70%以下とします。 ②外貨建資産への投資については、特に制限を設けません。

## ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント

〒106-6147 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

お問合せ先：03-6437-6000(代表)

受付時間：営業日の午前9時～午後5時 | [www.gsam.co.jp](http://www.gsam.co.jp)

## ■最近5期の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		債券組入比率	債券先物比率	純資産総額
	円	期中騰落率		期中騰落率			
39期(2021年4月20日)	14,304	△3.2	14,563	△2.4	81.1	△95.0	7,604
40期(2021年10月20日)	14,435	0.9	14,543	△0.1	82.4	△45.6	7,198
41期(2022年4月20日)	13,721	△4.9	13,765	△5.3	83.2	△45.2	6,510
42期(2022年10月20日)	12,973	△5.5	12,805	△7.0	79.0	△41.3	5,829
43期(2023年4月20日)	13,014	0.3	12,989	1.4	79.7	△15.3	5,567

(注1) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 日本円1ヵ月TIBOR20%、2021年12月31日まではJPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 1ヵ月円LIBOR20%) は、2001年11月29日を10,000として指数化しております。

(注2) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

## ■当期中の基準価額と市況推移

年月日	基準価額		ベンチマーク		債券組入比率	債券先物比率
	円	騰落率		騰落率		
(期首) 2022年10月20日	12,973	—	12,805	—	79.0	△41.3
10月末	13,078	0.8	12,928	1.0	80.1	△41.3
11月末	13,192	1.7	13,102	2.3	78.7	△36.1
12月末	12,965	△0.1	12,887	0.6	76.0	△33.8
2023年1月末	13,135	1.2	13,054	1.9	76.8	△32.9
2月末	12,974	0.0	12,851	0.4	78.2	△35.4
3月末	13,082	0.8	13,071	2.1	79.0	△18.1
(期末) 2023年4月20日	13,014	0.3	12,989	1.4	79.7	△15.3

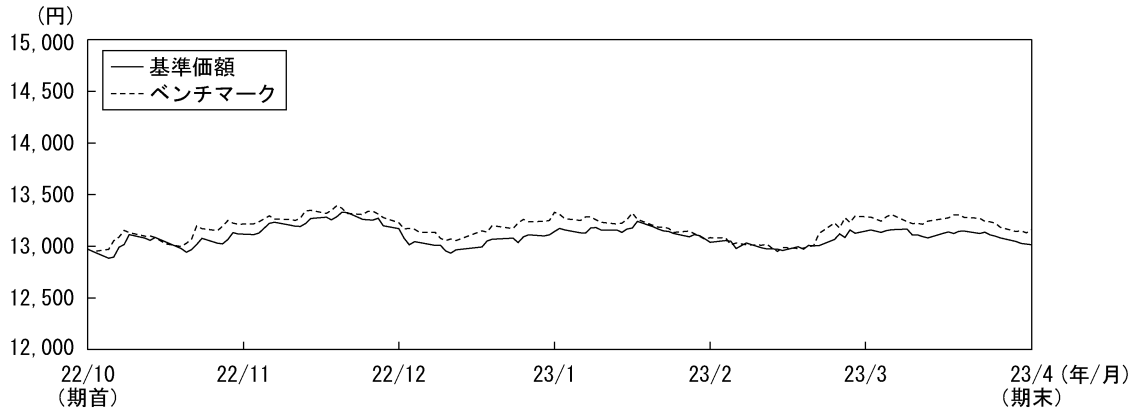
(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) ベンチマーク (JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 日本円1ヵ月TIBOR20%) は、2001年11月29日を10,000として指数化しております。

(注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率。

## 運用経過

### ■ 基準価額等の推移について（2022年10月21日～2023年4月20日）



(注1) ベンチマークはJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 1ヵ月円LIBOR20%、2022年1月よりJ Pモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス (グローバル) (100%為替円ヘッジ、円ベース) 80% + 日本円1ヵ月LIBOR20%です。

(注2) ベンチマークは、期首の基準価額を起点として指数化しています。

### ■ 基準価額の主な変動要因

本ファンドの基準価額は、期首の12,973円から41円上昇し、期末には13,014円となりました。

#### 上昇要因

債券国別配分戦略のプラス寄与が基準価額の上昇要因となりました。また、保有する債券からの利息収入も基準価額の上昇要因となりました。

#### 下落要因

通貨配分戦略や資産間配分戦略のマイナス寄与などが基準価額の下落要因となりました。

### ■ 投資環境について

#### <外国債券市場>

当期は、主要先進国の10年国債利回りは総じて下落（価格は上昇）しました。

期初は、2022年前半に顕著だった米国の物価上昇により、FRB（米連邦準備制度理事会）が政策金利を連続して引き上げ、短期金利の上昇が続いていました。11月上旬に発表された米国のインフレ関連指標が市場予想を下回り、金融市場ではFRBの利上げペースの鈍化と近い将来の利下げを織り込むようになり、米国10年債利回りは4.0%超程度から3.5%程度へ低下しました。一方で景気の減速感が和らいだことから2023年に入ると利回りは上昇していましたが、3月に発生した米国大手地方銀行の破綻の結果、金融セクターの健全性を維持する観点からFRBが利上げペースを鈍化させるとの期待も強まり、

4.0%程度を超えていた利回りは4月下旬には3.5%近辺へ低下し、期を終えました。一方、ドイツ10年国債は2.0%程度～2.5%程度のレンジで期中安定して推移しました。

### <外国為替市場>

外国為替市場では、主要国通貨は対円で下落しました。米ドル円相場は、日米金利差の拡大を背景に円安・米ドル高傾向が続き、期初では1米ドル=150円近辺でしたが、その後は米国の政策金利の頭打ちが予想されたこと、日本銀行によるイールドカーブコントロール（長短金利操作）政策の修正期待から、期末には1米ドル=135円近辺まで下落しました。英ポンド、ユーロ、豪ドルなど主要通貨も米国政策金利の頭打ち予想を背景に、期を通して米ドルに対して上昇傾向で推移しました。

### ■ポートフォリオについて

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行いました。

当社のアクティブな投資判断に基づいて、この運用期間中に投資配分比率を機動的に変更しました。

### 債券国別配分戦略

当期の債券国別配分戦略は、本ファンドのパフォーマンスにプラス寄与となったものと推定していません。イタリアと米国はマイナス要因となりましたが、カナダ、フランスがプラス要因となり、戦略全体としてはプラスとなりました。

### 通貨配分戦略

通貨配分戦略は、債券国別配分戦略とは独立して行います。例えば、米国の債券について強気の見通しであっても、米ドルに対して弱気の見通しであれば、米国債券にはオーバーウェイトとすると同時に、米ドルをアンダーウェイトとするということになります。当期の通貨配分戦略は、本ファンドのパフォーマンスにマイナス寄与となったものと推定しています。ユーロやカナダがプラス要因となりましたが、米国や英国がマイナス要因となり、戦略全体としてはマイナスとなりました。

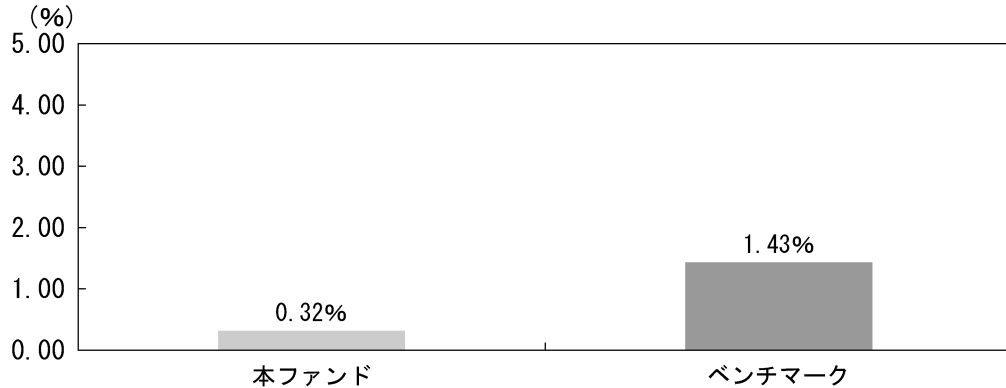
### 資産間配分戦略

当期の資産間配分戦略は、本ファンドのパフォーマンスにマイナス寄与となったものと推定していません。



## ■ベンチマークとの差異について

<当期の基準価額とベンチマークの対比（騰落率）>



当期の本ファンドのパフォーマンスは+0.32%となり、ベンチマーク（+1.43%）を下回りました。当期においては、通貨配分戦略と資産間配分戦略がマイナス寄与となった一方、債券国別配分戦略はプラス寄与となりました。

## 今後の運用方針について

基本資産配分は、債券80%、円短期金融商品20%とし、ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメントが開発した計量モデルを用いて、主として日本を含む世界の先進国の国債および通貨を中心に分散投資を行います。

### 債券国別配分戦略

債券国別配分においては、イタリアや米国に対して強気の見通しとする一方で、カナダやドイツに対して弱気の見通しとしています。イタリアに対しては、モメンタムの観点から強気の見通しとしています。米国に対しては、バリュウの観点から強気の見通しとしています。カナダに対しては、バリュウおよびモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。ドイツに対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

### 通貨配分戦略

通貨配分においては、米国やユーロに対して強気の見通しとする一方で、英国やスイスに対して弱気の見通しとしています。米国およびユーロに対しては、マクロの観点から強気の見通しとしています。英国に対しては、バリュウおよびマクロの観点から弱気の見通しとしています。スイスに対しては、マクロの観点から弱気の見通しとしています。

### 資産間配分戦略

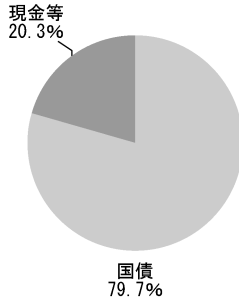
世界債券と円キャッシュ間の資産間配分戦略では、世界債券に対してモメンタムの観点から弱気の見通しとしています。

（上記見通しは2023年4月20日現在のものであり、今後見通しは変更されることもあります。）

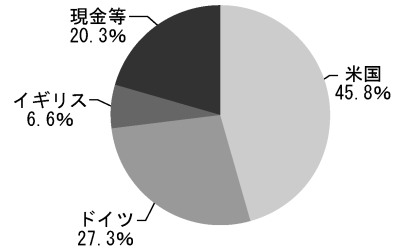
## 本ファンドのデータ

■本ファンドの組入資産の内容（2023年4月20日現在）

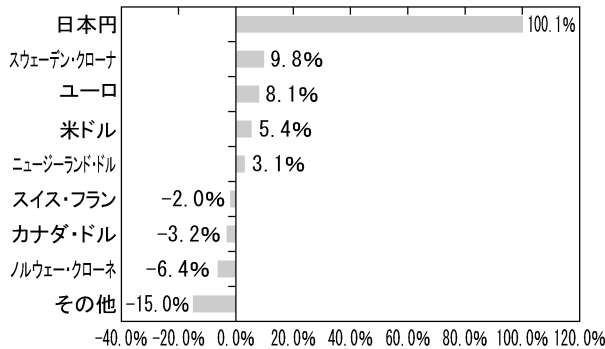
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



○組入上位10銘柄

（組入銘柄数：12銘柄）

	銘柄	種別	通貨	構成比
1	アメリカ国債 6.25% 2030年5月15日	国債	USD	16.4%
2	アメリカ国債 4.5% 2036年2月15日	国債	USD	15.8%
3	アメリカ国債 3% 2048年2月15日	国債	USD	13.6%
4	ドイツ国債 4.75% 2028年7月4日	国債	EUR	5.9%
5	ドイツ国債 6.25% 2030年1月4日	国債	EUR	5.5%
6	ドイツ国債 5.5% 2031年1月4日	国債	EUR	5.5%
7	ドイツ国債 4.75% 2034年7月4日	国債	EUR	5.3%
8	ドイツ国債 4% 2037年1月4日	国債	EUR	5.1%
9	イギリス国債 4.25% 2032年6月7日	国債	GBP	1.9%
10	イギリス国債 4.25% 2039年9月7日	国債	GBP	1.6%

（注）上記の比率は全て本ファンドの純資産総額に対する割合です。

## ■1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2022年10月21日～2023年4月20日		
	金額	比率	
売買委託手数料 (先物・オプション) (プライムブローカー)	2円 (1) (0)	0.012% (0.010) (0.002)	有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数
その他費用 (保管費用) (その他)	4 (1) (3)	0.031 (0.005) (0.026)	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 海外資産等の海外保管銀行等に支払う保管・送金・受渡に係る費用 信託事務処理等に要するその他の諸費用
合計	5	0.043	

期中の平均基準価額は13,071円です。

- (注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む。)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。
- (注2) 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

## ■売買及び取引の状況(2022年10月21日から2023年4月20日まで)

### 先物取引の銘柄別取引状況

			買 建		売 建	
			新規買付額	決済額	新規売付額	決済額
			百万円	百万円	百万円	百万円
国内	債券先物取引	10年国債標準物	5,146	3,836	—	—
外国	債券先物取引	米国国債先物10年	—	—	5,919	6,752
		カナダ国債先物10年	422	438	1,075	989
		オーストラリア国債先物10年	1,504	1,486	427	434
		英国国債先物10年	208	208	819	1,045
		イタリア国債先物10年	2,366	2,245	269	283
		ドイツ国債先物10年	—	—	4,535	4,458
		フランス国債先物10年	876	1,592	327	—

- (注1) 金額は受渡し代金。
- (注2) 外国の取引金額は、各月中の取引額を当該月末(決算日の属する月については決算日)の対顧客電信売買相場の仲値で換算した邦貨金額の合計です。

## ■利害関係人との取引状況等(2022年10月21日から2023年4月20日まで)

利害関係人との取引はありません。

- (注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ■組入資産の明細(2023年4月20日現在)

## (1) 公社債

## A 債券種類別開示

## 外国(外貨建)公社債

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格 以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
ア メ リ カ	千米ドル 18,331	千米ドル 18,899	千円 2,549,877	% 45.8	% —	% 45.8	% —	% —
ユ ー ロ	千ユーロ	千ユーロ						
ド イ ツ	8,709	10,288	1,520,784	27.3	—	27.3	—	—
イ ギ リ ス	千英ポンド 2,212	千英ポンド 2,188	366,939	6.6	—	6.6	—	—
合 計	—	—	4,437,602	79.7	—	79.7	—	—

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

## B 個別銘柄開示

## 外国(外貨建)公社債

種 類	銘 柄 名	当 期 末					償還年月日
		利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日	
				外貨建金額	邦貨換算金額		
国 債 証 券	(アメリカ)	%	千米ドル	千米ドル	千円		
	US TREASURY N/B 3%	3.0	6,567	5,618	758,100	2048/2/15	
	US TREASURY N/B 4.5%	4.5	5,931	6,520	879,731	2036/2/15	
	US TREASURY N/B 6.25%	6.25	5,833	6,759	912,045	2030/5/15	
	小 計	—	—	—	2,549,877	—	
国 債 証 券	(ユーロ…ドイツ)		千ユーロ	千ユーロ			
	DEUTSCHLAND REP 4%	4.0	1,643	1,906	281,851	2037/1/4	
	DEUTSCHLAND REP 4.75%	4.75	1,999	2,212	327,123	2028/7/4	
	DEUTSCHLAND REP 4.75%	4.75	1,652	2,003	296,153	2034/7/4	
	DEUTSCHLAND REP 5.5%	5.5	1,718	2,077	307,082	2031/1/4	
	DEUTSCHLAND REP 6.25%	6.25	1,697	2,087	308,572	2030/1/4	
	小 計	—	—	—	1,520,784	—	
国 債 証 券	(イギリス)		千英ポンド	千英ポンド			
	UK TREASURY 3.25%	3.25	574	497	83,499	2044/1/22	
	UK TREASURY 4.25%	4.25	606	629	105,615	2032/6/7	
	UK TREASURY 4.5%	4.5	494	515	86,479	2042/12/7	
	UK TSY 4 1/4% 2039 4.25%	4.25	538	544	91,344	2039/9/7	
	小 計	—	—	—	366,939	—	
	合 計	—	—	—	4,437,602	—	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

## (2) 先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別		当 期 末	
		買 建 額	売 建 額
国 内		百万円	百万円
	10年国債標準物	2,064	—
外 国	イタリア国債先物10年	703	—
	ドイツ国債先物10年	—	1,498
	米国国債先物10年	—	1,633
	英国国債先物10年	—	16
	カナダ国債先物10年	—	249
	フランス国債先物10年	—	321
	オーストラリア国債先物10年	98	—

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。

(注2) —印は組入れなし。

## ■投資信託財産の構成

2023年4月20日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公 社 債	4,437,602	76.8
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,343,403	23.2
投 資 信 託 財 産 総 額	5,781,005	100.0

(注1) 当期末における外貨建純資産(4,782,759千円)の投資信託財産総額(5,781,005千円)に対する比率は82.7%です。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により、邦貨換算したものです。なお決算日における邦貨換算レートは1米ドル=134.92円、1カナダドル=100.21円、1ユーロ=147.82円、1英ポンド=167.69円、1スイスフラン=150.23円、1オーストラリアドル=90.50円です。

## ■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	当 期 末
	2023年4月20日
(A) 資 産	20,285,052,291円
コール・ローン等	993,449,082
公社債（評価額）	4,437,602,110
未 収 入 金	14,620,339,098
未 収 利 息	67,964,890
前 払 金	12,078
差入委託証拠金	165,685,033
(B) 負 債	14,717,833,949
未 払 金	14,717,530,264
未 払 解 約 金	301,538
未 払 利 息	2,147
(C) 純資産総額（A - B）	5,567,218,342
元 本	4,277,824,850
次期繰越損益金	1,289,393,492
(D) 受益権総口数	4,277,824,850口
1万口当たり基準価額（C/D）	13,014円

## ■損益の状況

項 目	当 期
	自2022年10月21日 至2023年4月20日
(A) 配 当 等 収 益	93,763,664円
受 取 利 息	94,182,953
支 払 利 息	△ 419,289
(B) 有価証券売買損益	△ 40,956,519
売 買 益	555,850,116
売 買 損	△ 596,806,635
(C) 先物取引等取引損益	△ 30,978,544
取 引 益	363,308,179
取 引 損	△ 394,286,723
(D) 信託報酬等	△ 1,880,582
(E) 当期損益金（A + B + C + D）	19,948,019
(F) 前期繰越損益金	1,335,954,750
(G) 追加信託差損益金	28,783,933
(H) 解約差損益金	△ 95,293,210
(I) 計（E + F + G + H）	1,289,393,492
次期繰越損益金（I）	1,289,393,492

(注1) 損益の状況の中で (B) 有価証券売買損益および (C) 先物取引等取引損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で (G) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で (H) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。

(注4) 期首元本額は4,493,612,203円、当作成期間中において、追加設定元本額は93,836,383円、同解約元本額は309,623,736円です。

(注5) 元本の内訳   ガリレオ                                   2,872,490,772円  
                  DC ガリレオ                                   1,405,334,078円